

関連項目：教育活動プラン②

## 異学年で交流し、人との関わりについて体験を通して学ぶ

### 目的

一人一人の児童の個性の伸長を図りながら、同時に社会性を形成していくための指導や支援を行い、個々の児童の自己指導能力の育成をめざすことにしました。

### 内容

#### ● 相手の思いを知り、協力し合う人間づくりの実践

##### ① 四条校区市民体育祭における応援合戦

全校生を異学年で6つのグループに分け、6年生のリーダーを中心に活動をする場を設けました。体育祭では、色別にエールをかけて入場します。色別グループで応援の内容や仕方について何度も話し合い、練習を重ねました。休み時間の自主的な練習によってチームの結束をさらに深めることができました。当日は、各色のグループが工夫をこらした応援を披露し、元気いっぱいの声が運動場に響き渡りました。



色別の応援合戦

##### ② 挑戦タイム

毎週火曜日の業間の時間を利用して挑戦タイムを行いました。色別の季節行事や時期に合わせて内容を変え、一人一人がめあてをもって取り組めるように自己評価カードを作成しました。カードの活用によって自分の伸びを知るとともに次の目標に向かって挑戦する意欲を持たせることができました。「マラソンにチャレンジ」では、進級をめざして友だちと励まし合いながら、トラックを走る姿が見られるようになりました。



マラソンにチャレンジ

#### ● みんなに役立つ自分の発見

##### ① チャレンジグリーン活動

2学期は、運営委員の呼びかけでチャレンジグリーン活動を行いました。「気づき 考え 実行する 四条の子」を合言葉に年間を通じて朝の奉仕活動を行ってきました。その活動に重点期間を設けて、全校生で一斉に取り組を進めました。学校や学級のために、奉仕活動だけでなく、委員会の仕事や係の活動にだれもが参加することが、自己の判断力や実践力を育てることにつながりました。



朝の奉仕活動

##### ② 色別清掃・色別給食

2学期から3学期前半にかけて色別活動を清掃や給食の時間にも実施しました。新しいグループで活動を行うために、どのように仕事を分担し、誰がどんな役割を担うか話し合いました。

上級生は下級生の立場に立って計画し、清掃や給食の配膳や後片付けの場面で下級生に手本を示すことで自主的に責任を果たそうと頑張りました。下級生は上級生の行動を見て、活動の仕方を学び、自分にできることをしていくなかで自信を持つことができました。

### 成果

異学年交流活動を計画的に実践することによって、自分の周りに目を向け、自分に求められることに気づき、時と場に応じた行動ができるようになってきました。チャレンジグリーン活動では、10月に約70%だった達成度が12月には約86%になり、自主的に奉仕活動に取り組む姿が見られました。